

# 中村設計新聞

## 中村設計新聞発行一周年記念

？中村設計新聞とは？

中村設計では第三土曜日に、見聞を広げ、知識を高めるため、様々な研修行事を行っています。その研修内容を新聞にまとめていくんな、中村設計を知って頂けたらというのが始まりでした。第十号で発行から一年がたち、節目として、この一年の企画を振り返るって見たいと思います。

### 土曜研修アンケート



平成二十一年三月から平成二十二年三月の土曜研修の中で、所員が「よかった」と思う企画を上位から三つ選びました。どの企画が一番になったのでしょうか？

#### 土曜研修 企画内容

- 三月 大阪中之島 見学
- 四月 ヨガ 体験
- 五月 美山町 かやぶき民家 見学
- 六月 屋上緑化と太陽光発電 勉強会 (サンサ右京見学)
- 九月 テニス 体験・試合
- 五月〜九月 グリーンカーテン実験
- 十月 モクモク手づくりファーム 体験
- 十二月 しめ縄、鏡餅作り 体験
- 一月 七福神巡り、箸作り 見学・体験
- 三月 国登録有形文化財のリノベーションされた建物 見学・勉強会

- 第一位 美山町 かやぶき民家 見学
- 理由 ・かやぶき民家の空間にふれる事で、茅葺の良さを実感できた。  
・以前から見たかった。
- 第二位 七福神巡り、M.Y.箸作り
- 理由 ・みんなで一つの事を達成できた。  
・寺院建築及び京都の町並みを別

## 第十号

三月二十日(土)晴れ  
中村設計新聞発行一周年記念！発行から一年を振り返りたいと思います。三月土曜研修は国登録有形文化財の建物見学を実施しました。

の視点で見れた。

第三位 グリーンカーテン  
理由 ・環境にも視覚的にも涼しい感じが良い。  
・グリーンカーテンの効果や育て方を体験出来た。  
・ゴーヤが美味しかった。

アンケートの結果、レクリエーション企画や建物見学に票が集まりました。今後も様々な企画を実施、体験することで得た知識を設計に生かしたいと思えます。

### 番外編

一月に行った、M.Y.箸作りで各自が作ったお箸のテーマを発表してもらいました。第九号で掲載できなかったため、今月号で披露したいと思います。

- 一、ひらめき
- 二、夫婦円満
- 三、京都の山 大文字山
- 四、金魚のお腹 満腹のお腹
- 五、趣味
- 六、祭り
- 七、アドレスは 漢字で
- 八、四季を イメージ
- 九、我が人生
- 十、一面だけに模様を描き 箸に表裏を作った。
- 十一、四季を 表現

### 三月土曜研修



冬が過ぎて、春の香りが漂いだした三月、昨年見学した大阪中之島界隈の国登録有形文化財巡りに引き続き、今年は身近な京都の国登録有形文化財を見学しました。

現在も銭湯として利用され、文化財に指定されている『船岡温泉』と、銭湯からカフェにリノベーションされた『さらさ西陣』を見て・触れ・感じ、建物を利用することで空間を体感しました。また『さらさ西陣』にて所員間でディスカッションを行い、有意義な時間を過ごしました。

#### 船岡温泉

#### レポート

住宅街の中に大きな石垣と唐破風。創業当時は料理旅館として、現在は銭湯として、近所の方や観光客が多く訪れる船岡温泉。営業前に女性の銭湯内を見学をさせて頂き営業開始と共に実際に入浴してきました。脱衣室に入ると天井に鞍馬天狗が牛若丸に剣術を教えているレリーフや葵祭、今宮神社祭等が描かれた彫刻欄間、壁にはカラフルで色鮮やかなマジヨリカティルが目飛び込んできます。銭湯でこれほどの豪華な装飾を見たことがありません。棟梁の遊び心を随所に感じる事ができました。

何度か改修はされていますが、創業当時の内装が残され、建物を大切にしている感じが伝わってきます。国登録有形文化財とは関係なく、ただこの建物を残したいという気持ちだけというオーナーの言葉がとても印象に残っています。歴史がある建物をただ残すのではなく、建物を大切に思い、人々に利用されながら自然に建物が生きつづけていくことの大切さと、文化財に登録



天井に施され 彩り鮮やかなマジヨリカティル しているレリーフ

されていますが、何も特別なことではなく、オーナーと銭湯を利用する人々がいることで建物を保存するだけではない価値が生まれるのだと思えました。

レポート 渡邊 ゆか

### さらさ西陣

#### レポート

建物が長きにわたり存在し、今に至るにはいくつかの理由があります。人の英知と匠によって創られた名建築と謳われるもの。人に溶け込み存在そのものが必然的となっているもの。開発・進歩の道からずれたことにより残されたもの。いずれも当時の歴史の中で生み出され、時が刻まれ、現在に至るものです。

古家が文化財かの判断は人の価値判断によるものであり、時代や見方が変われば価値そのものが変わります。同じように古きものがすべて良きものとは言えません。歴史学や建築学的な意味で残すものは別にして、その他の大多数のものはどうなっていくのでしょうか。一つの答えがここにあります。銭湯は社交場であり、用途が変われど同じような使われ方で存在するかがり、次の時代へも受け継がれていくでしょう。本建物の場合はその点に配慮されているのではないのでしょうか。

内装や仕切・装飾・鏡・マジヨリカティル・洗面台はそのままに、浴槽を壊さずに床をかぶせる等の配慮は、この建物の刻まれた精神や記憶をそのまま利用し受け継いでいます。(そういった意味ではリノベーションではないかもしれませんが)



記憶から忘れ去られ朽ち果てていくもの。残るべくして残り、これからも受け継がれていくもの。どちらとなるかは、建物と人をつなげる必然性があるかないかなのでしょうか。みなさんも古き良き建物とは何か・・・一度考えてみられては。

レポート 岩田 信一



### さらさ西陣での

ディスカッション・・・

建物の保存とリノベーションとは、人と建物が相互に繋がりをもちコミュニケーションがあるからこそ、リノベーションされても、古き建物の良さを残せ、意義があるという意見が多く出ました。ただ単に古き建物を保存やリノベーションをするのではなく文化の継承や地域の付き合い、生活の習慣等も残せないと、建物だけの保存となり、本来の意味で「保存」が出来ないという事を学びました。

現地にてディスカッションを行うことにより、他の所員がどういうことに気付く・感じたかを知ることができました。建築的に、経験の浅い私には、諸先輩方と共に見学し、意見を聞くことで、建築の知識を広げる貴重な時間となりました。

レポート 渡邊 ゆか

